別表第3

補強コンクリートブロック造の建物の耐力度簡略調査表

(表面)

Ⅳ学校種別	Ⅴ整理番号

	都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間		平成 年 月 日～平成 年 月 日		Ⅲ結果	点数
Ⅰ調査学校					調査者	職名	建築士登録番号	氏名	A構造耐力	耐力度
								印	点	A×B×C
									B保存度	
									点	
									C外力条件	
										点

	建物区分	棟番号	階数	面積		建物の経過年数		被災歴		補修歴	
Ⅱ調査建物				一階面積	延べ面積	建築年	経過年数	状況	被災年	内容	補修年
			＋	m²	m²	明治 大正 昭和 平成 年	年		明治 大正 昭和 平成 年		明治 大正 昭和 平成 年

A 構造耐力																
① 保有耐力	a 水平耐力 q	階	方向	垂直部材耐力 Qo	建物重量 W	層せん断力分布係数Ai	方向別水平耐力 Qo/WAi	qx又はqyの最小値	判別式		評点			評点合計	
			けた行 X				qx		q≧0.75	1.0	ア	オ＝ア×イ×ウ×エ＝（0.3以下×は0.3とする）	カ (オ×50) 点	(カ＋ク＋コ＋シ)	
			張り間 Y				qy		0.75＞q＞0.3	直線補間					
									q≦0.3	0.3					
	b コンクリートブロック強度 α		種別標準強度 fN			圧縮強度 fB		α＝fB／fN	判別式		イ				
			旧A種 30kg／cm² A種 50kg／cm² B種 70kg／cm² C種 90kg／cm²						α≧1.0	1.0					
									1.0＞α＞0.5	直線補間					
									α≦0.5	0.5					
	c 偏心率 Re		偏心距離e		弾力半径re		Re＝e／re	Reの最大値	判別式		ウ			A	点
			けた行方向 x	張り間方向 y	けた行方向 x	張り間方向 y	けた行方向 x	張り間方向 y							
									Re≦0.15	1.0					
									0.15＜Re＜0.3	直線補間					
									Re≧0.3	0.7					
	d 臥梁スラブ構造 m		臥梁寸法 m1			スラブ(屋根) m2		m＝m1×m2	評価		エ				
			基準値を満足		基準値を満足しない	鉄筋コンクリート	その他	1.0	m＝1.0	1.0					
								0.9	m＝0.9	0.9					
			1.0		0.9	1.0	0.9	0.81	m＝0.81	0.8					
	② コンクリート圧縮強度		設計基準強度					K＝Fc／150	判別式		評点				
			設計図書有り			設計図書無し			K≧1.0	1.0	キ	ク(キ×10)			

	k	Fc＝　kg／cm²	kg／cm²		1.0＞K＞0.5	直線補間		点	
					K≦0.5	0.5			
	③ 基礎構造 β	木杭	RC杭・ペデスタル杭	独立基礎・その他杭・不明	評価		評点		
		0.8	0.9	1.0	該当値の最小値		ケ	コ(ケ×20) 点	
	④ ブロック種別	旧A種	A種	B種	C種	評価		評点	
		0.8	0.9	1.0	1.0	該当値の最小値		サ	シ(サ×20)

B 保存度	① 経過年数 (残存率T)	経過年数t	判別式								評点		評点合計	
		年・	T＝・ $\frac{38-t}{38}$								ア・	イ(ア×30) 点		
	② コンクリート中性化深さ α	α＝0.37√t						判別式			評点		セ＝(イ＋エ＋カ＋ク＋コ＋シ)	
								α≦1.5cm	1.0		ウ	エ(ウ×30) 点		
								1.5cm＜α＜3cm	直線補間				セ(　　) 点	
								α＞3cm	0.5					
	③ 鉄筋腐食度 F・	部位	柱・梁	壁	床	平均値F		評価			評点			
								1	2以下	3以下	オ	カ(オ×10) 点		
		ランク						1.0	0.75	0.5				
	④ 不同沈下 φ・	部位・	内・外壁・	基礎梁及び基礎立上り	平均値 φ			評価			評点			
								1	2以下	3以下	キ	ク(キ×10) 点	B＝(セ×ス)	
		ランク						1.0	0.75	0.5				
	⑤ ひび割れ C・	部位	柱・梁	壁	床	平均値C		評価			評点		B	
								1	2以下	3以下	ケ	コ(ケ×10) 点		点
		ランク						1.0	0.75	0.5				
	⑥ 床のたわみ量	ランク						評価			評点			
								1	2	3	サ	シ(サ×10) 点		
		1	2	3				1.0	0.75	0.5				
	⑦ 火災による疲弊度 S・	程度・	構造体変質	非構造材全焼	非構造材半焼	煙害程度・	当該階の床面積so	被災率s・	判別式・		評点・			
		被災床面積	s1	s2	s3	s4		S＝st／so	s＝0	1.0	ス			
		評価後被災面積 st	st＝s1＋s2×0.75＋s3×0.5＋s4×0.25						0＜s＜1	直線補間				
									s＝1	0.5				

C 外力条件	①地震地域係数		②地盤種別		③積雪寒冷地域		④海岸からの距離		評価	評点
	四種地域	1.0	一種地盤	1.0	その他地域	1.0	海岸から8kmを超える	1.0	c＝ $\frac{(1+2+3+4)}{4}$	C
	三種地域	0.9								
	二種地域	0.85	二種地盤	0.9	二級積雪寒冷地域	0.9	海岸から8km以内	0.9	c＝ $\frac{(+\quad+\quad+)}{4}$	
	一種地域	0.8	三種地盤	0.8	一級積雪寒冷地域	0.8	海岸から5km以内	0.8		

(裏面)

学校名	

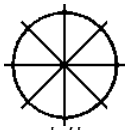
1　調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は他と区別できるような太線とする。

2　寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。

3　平面図に鉄筋腐食度及び不同沈下の測定位置を記入する。

4　余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

調 査 者 の 意 見



方位